

(別添 3)

【愛知県南知多町】

校務DX計画

南知多町は、令和2年度に1人1台端末導入後、授業支援ソフトウェアや学習eポータル等を活用し、教育のデジタル化を進めてきました。

教員間においては、校務支援システムのグループウェアやクラウドサービスを活用し、伝達事項や各種資料及び教材をデジタル化して共有しています。

今後、校務DXを推進するために「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、具体的な取組みを次のとおり設定します。

1. 校務系及び学習系ネットワークの統合

南知多町では、現在、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離し、インターネット経由等から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としています。そのため、校務用と学習用それぞれ端末を用意し、校務用端末は持ち出しを原則禁止しています。

今後、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、1台の教職員用端末で2つのネットワーク（校務系及び学習系）を切り替えて利用できるようゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき適切にセキュリティを確保しつつ、校務系・学習系ネットワークの統合について調査・検討を進めます。

2. 校務支援システムのクラウド化

平成30年度より校務支援システムを導入し、教務・保健・学籍・成績管理等など幅広い業務で利用しており、教職員の業務負担軽減を図っています。

しかし、現行のシステムはオンプレミス型（各校のサーバー上）で運用しており、学習系で生成されたデータと校務支援システムに蓄積された校務系データの連携が困難であること、自宅や出張先で校務処理ができないことなどの課題があります。

これらの課題について、教職員の働き方改革を推進するために、どの環境からでもアクセス可能となるよう既存システムへのインターネット接続口の追加を調査・検討します。

校務支援システムの次期更新時（令和10年8月末）のクラウド化を目指し、教職員と情報共有しながら導入を進めます。

3. 汎用クラウドツールの一層の活用

(1) GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

全ての教職員に個人メールアドレスが付与されており、情報共有や連絡等にクラウドサービスが活用できる環境にあり、教職員間や教職員と児童生徒のデータ共有等、多くの学校で校内におけるクラウドサービスを活用しています。

一方、「保護者への調査・アンケート」や「保護者からの問合せや連絡」については、学校によっては活用が進んでいないため、先進地域の事例の紹介や研修会の実施により、各学校におけるクラウドサービスの対象が保護者等にも広がるよう支援を行っています。

(2) FAX・押印等の制度・慣行の見直し

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、全ての学校でFAXを活用しています。

また、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があるため、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

(3) 教育情報セキュリティポリシーの策定

南知多町では、行政系が策定した情報セキュリティポリシーを準用していますが、教育情報セキュリティとして適切ではない部分もあるため、クラウド上のデータやクラウドサービスを活用することを前提とした教育情報セキュリティポリシーを策定予定です。国の方向性や現状を的確に把握しながら、随時改正行います。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきましたが、学校現場は依然として紙ベースの資料が多いため、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。